

奈良大学博物館 令和4年度企画展 ～『古写真のなかの奈良－奈良大学図書館所蔵 北村信昭コレクションのガラス乾板写真』開催～

奈良大学博物館では、明治18年（1885年）に猿沢池湖畔で写真店を開業していた北村写真館の一代目当主・北村太一氏とその孫の北村信昭氏が撮影した古都・奈良の風景写真を企画展示している。明治から昭和初期に撮影されたこれらの写真は、現在とは異なる当時の町並みを知ることのできる大変貴重な資料となっている。

1. 歴史・文化財情報に関する知の拠点として

多くの歴史遺産を持つ古都・奈良に立地する「奈良大学」では、様々な歴史的文化財を生きた教材として活用している。特に同大学の図書館はダーウィンの『種の起源』の初版本など貴重な図書を数多く所蔵しており、蔵書数は約57万冊にも及ぶ。また平成26年5月には、日本考古学協会より6万冊を超える文化財研究の専門書が寄贈され、その結果15万冊以上の文化財専門書を揃えることとなり世界から注目を集めている。

同大学が所蔵する多くの学術資料の公開や、学内共同の教育研究施設として2007年に「奈良大学博物館」は開館した。同施設は、約5,000点の美術・考古・歴史・民俗資料を収蔵しており企画展の開催など、広く一般にも公開している。



奈良大学博物館（奈良大学通信教育部棟内）

2. 近代の奈良の姿を伝える北村信昭コレクション

（1）北村写真館と奈良

奈良の近代写真の草分的存在である北村太一氏は、東京で写真の技術を学んだ後、古都の情景を撮影するため奈良の地を訪れた。この地に永住することを決めた太一氏は北村写真館を創業、奈良

の風景を数多く撮影した。また、孫の信昭氏は家業の傍ら地元紙の『大和日報』（現：奈良新聞社）の編集部で文芸欄を担当し、当時奈良に住んでいた志賀直哉氏など多くの文化人と交流を持った。写真以外に民俗学などにも興味を示す好奇心旺盛な人物だった信昭氏も太一氏の思いを引き継ぎ、当時の奈良の情景を数多くカメラに収めている。

今回の企画展では、北村信昭氏のご遺族により平成12年に奈良大学図書館に寄贈されたガラス乾板写真*の一部をデジタル化したものを、写真パネルに引き延ばして展示している。これらの写真により明治から昭和にかけての当時の奈良の様子を知ることができる。

※ガラス乾板写真…写真感光材を塗布したガラス板に被写体を写す明治10年代後半に登場した写真技術

（2）展示作品

1. 東大寺大仏殿（撮影時期：明治30～40年代）



「東大寺大仏殿」 撮影者：北村太一
（以下写真はすべて「奈良大学図書館蔵」）

大仏殿は宝永年間に再建されて以来、しばしば修理が行われていたが、明治の初めには屋根が崩れ、軒が傾くなど危険な状態にあったため明治39年（1906年）より本格的な修復工事が始まった。この写真では瓦屋根の瓦が一部はがされ、周りには建築資材が置かれていることから、修復工事の期間中と思われる。

2. 興福寺五重塔から撮影した写真

（撮影時期：昭和11年3月31日）



「興福寺五重塔からの眺め―荒池・奈良ホテルを望む」
撮影者：北村信昭

奈良市観光課より三笠山を望んだ写真の注文があり撮影したもので、興福寺の五重塔に登り、欄干を跨いで屋根に三脚を設置し撮影された。当時は戦時中のため防衛上の理由から一定の高さからの俯瞰撮影は禁止されていたが、三笠山以外の処分しなければならぬ写真の原板をこっそり保管していたと思われる。この写真では、五重塔の下に多くの旅館が建ち並ぶ様子や、右下の看板には列車の絵が見られる。また写真中央には今は暗渠となっている菩提川の様子が見られ、左手奥には荒池や奈良ホテル、^{あんきよ}瑜伽山を見ることができる。

3. 猿沢池の池ざらえ

（撮影時期：明治30年代初め頃）

池の中で作業する人々と写真奥には池の様子を見るために集まった多くの人々が、また遠くには興福寺の三重塔が見える。信昭氏が著した『奈良いまは昔』によると、猿沢池には明治末から大正時代には鯰や鰻もいたという。



「猿沢池の池ざらえ」 撮影者：北村太一

●令和4年度企画展

『古写真のなかの奈良―奈良大学図書館所蔵
北村信昭コレクションのガラス乾板写真』

【開催期間】

令和4年11月21日（月）～令和5年3月20日（月）

・場所…奈良大学博物館（奈良大学構内）

住所…奈良県奈良市山陵^{みささぎちょう}町1500

・開館時間…平 日：9：00～16：30

土曜日：9：00～12：00

※入館は、各曜日の閉館30分前まで

・休館日…日曜日・祝日

※学校行事等により、開館時間の変更や臨時
休館する場合があります。奈良大学博物館
HPの開館カレンダーをご確認ください。

・入館料…無料

・問い合わせ先…0742-44-1251（代表）

・<https://www.nara-u.ac.jp/museum/>

この他にも春日大社や明治30年代頃の旧奈良市市役所など23点の写真パネルが展示されている。デジタル処理された写真からは看板や人物の表情など細かいところまで確認することができる。

整理や研究を続ける同大学の光石亜由美教授は、「写真の撮影年代特定は難しく、写真の中の手がかりを基に特定した。歴史ある奈良の古いものに興味を持つ人は多くいるが、これらの写真から近代の奈良の面白さにも興味を持って現代との変化を楽しんでほしい」と話す。

（村井 渚）